

平成25年3月期(2012年度)  
第3四半期決算 説明資料  
＜概要＞

2013年1月31日

One MIZUHO 未来へ。お客さまとともに  
みずほフィナンシャルグループ

# 目次

---

◆ 収益の状況	P.2
◆ 貸出金・国内預貸金利回差	P.3
◆ 非金利収支	P.4
◆ 財務の健全性	P.5
◆ (参考)連単差	P.6

・本資料における「3行合算」の計数については、みずほ銀行、みずほコーポレート銀行、みずほ信託銀行の3銀行単体を合算した計数を示しております。

・「みずほ証券」「みずほインベスターズ証券」の計数については、合併前の各社の計数で示しております。

# 収益の状況

## 〔連結〕

(億円)	2012年度第3四半期	
	12/4~12	前年同期比
連結粗利益	16,297	+1,561
<b>連結業務純益 *1</b>	<b>7,154</b>	<b>+1,967</b>
与信関係費用	△ 320	△ 423
株式等関係損益	△ 1,075	+11
経常利益	5,904	+2,235
<b>四半期純利益</b>	<b>3,917</b>	<b>+1,208</b>

\*1: 連結粗利益－経費(除く臨時処理分)＋持分法による投資損益等連結調整

## 〈ご参考〉 3行合算

(億円)	2012年度第3四半期	
	12/4~12	前年同期比
業務粗利益	12,826	+1,005
顧客部門	9,158	+87
市場部門等	3,668	+919
経費(除く臨時処理分)	△ 6,243	+284
<b>実質業務純益</b>	<b>6,583</b>	<b>+1,290</b>
与信関係費用	△ 357	△ 391
株式等関係損益	△ 1,229	△ 73
経常利益	4,665	+1,571
<b>四半期純利益</b>	<b>3,508</b>	<b>+1,604</b>

## 連結業務純益

### ■ 前年同期比1,967億円増加の7,154億円

- 3行合算の業務粗利益は、前年同期比1,005億円増加
  - ✓市場部門等で919億円増加
  - ✓顧客部門は、アジアを中心に海外で増加し、国内を含めた全体で87億円増加
- 3行合算の経費は、前年同期比284億円削減
- 証券子会社2社(みずほ証券とみずほインベスターズ証券)合計の連結業務粗利益(純営業収益)は前年同期比425億円増加、販管費は前年同期比101億円削減

## 連結四半期純利益

- 前年同期比1,208億円増加の3,917億円  
(前年の特殊要因\*2控除後では、1,982億円の増加)
- 年度計画5,000億円に対して78%の進捗率

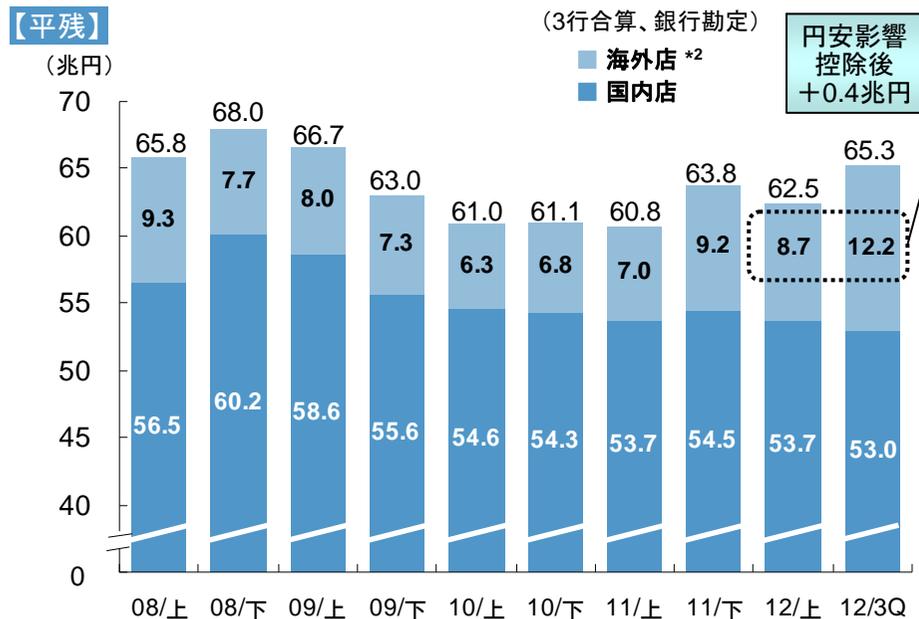
\*2: グループ会社の完全子会社化による影響774億円

- 連結与信関係費用は、前年同期比では悪化したものの、引続き低水準
- 連結株式等関係損益は、株価下落に伴う一部銘柄の償却実施等により、前年同期並みの△1,075億円
- みずほ証券は黒字転換(連結四半期純利益94億円)

# 貸出金・国内預貸金利回差

## 貸出金残高(平残)<sup>\*1</sup>

- 貸出金は円安による海外貸出の増加により12/上比大幅増加
- 国内貸出は政府等向け貸出の減少を除くと12/上比約0.2兆円増加  
海外貸出は円安影響控除後で12/上比約0.4兆円増加



## 【末残】

(兆円)

	08/上	08/下	09/上	09/下	10/上	10/下	11/上	11/下	12/上	12/3Q
合計	66.6	69.7	63.5	61.5	61.3	62.2	60.8	63.1	62.8	64.3
国内	57.2	61.2	56.3	54.8	54.9	55.0	53.3	54.4	53.7	54.1
海外 <sup>*3</sup>	9.3	8.5	7.2	6.6	6.4	7.1	7.4	8.6	9.1	10.1

【ご参考】 (管理会計、億ドル)

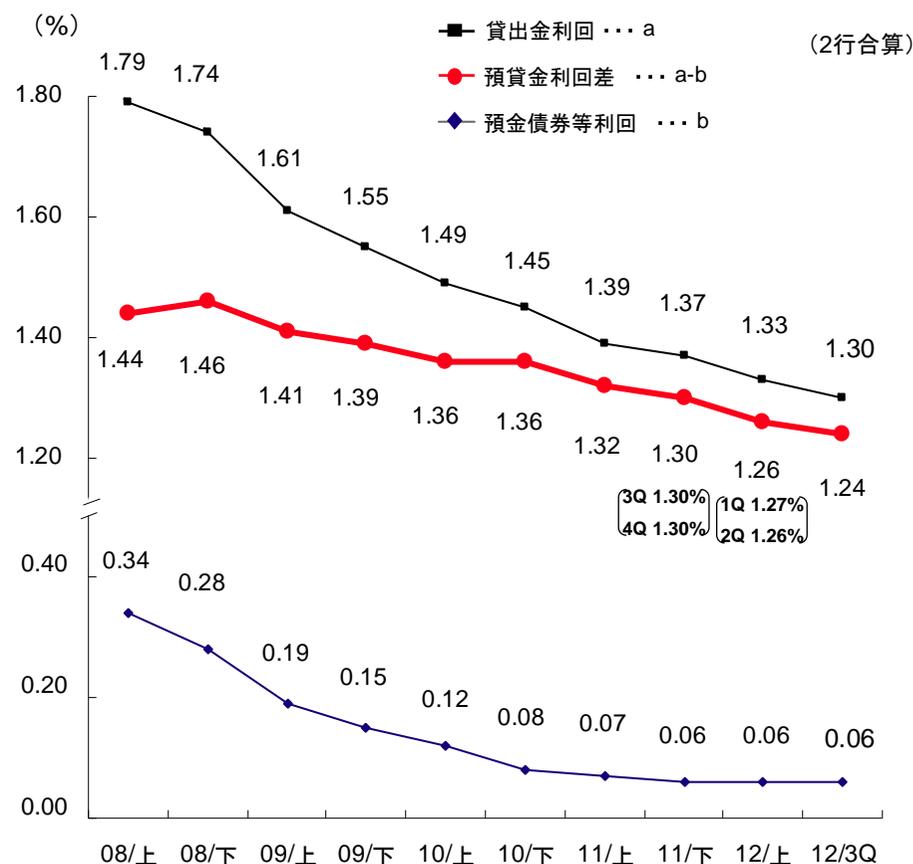
	08/上	08/下	09/上	09/下	10/上	10/下	11/上	11/下	12/上	12/3Q
海外 <sup>*4</sup>	1,004	1,082	836	772	874	971	1,135	1,199	1,316	1,309

\*1: (株)みずほフィナンシャルグループ向け貸出金を除く \*2: 海外店分は為替影響を含む

\*3: 海外: 海外店+オフショア勘定 \*4: みずほコーポレート銀行(含む中国現地法人)

## 国内預貸金利回差<sup>\*5</sup>

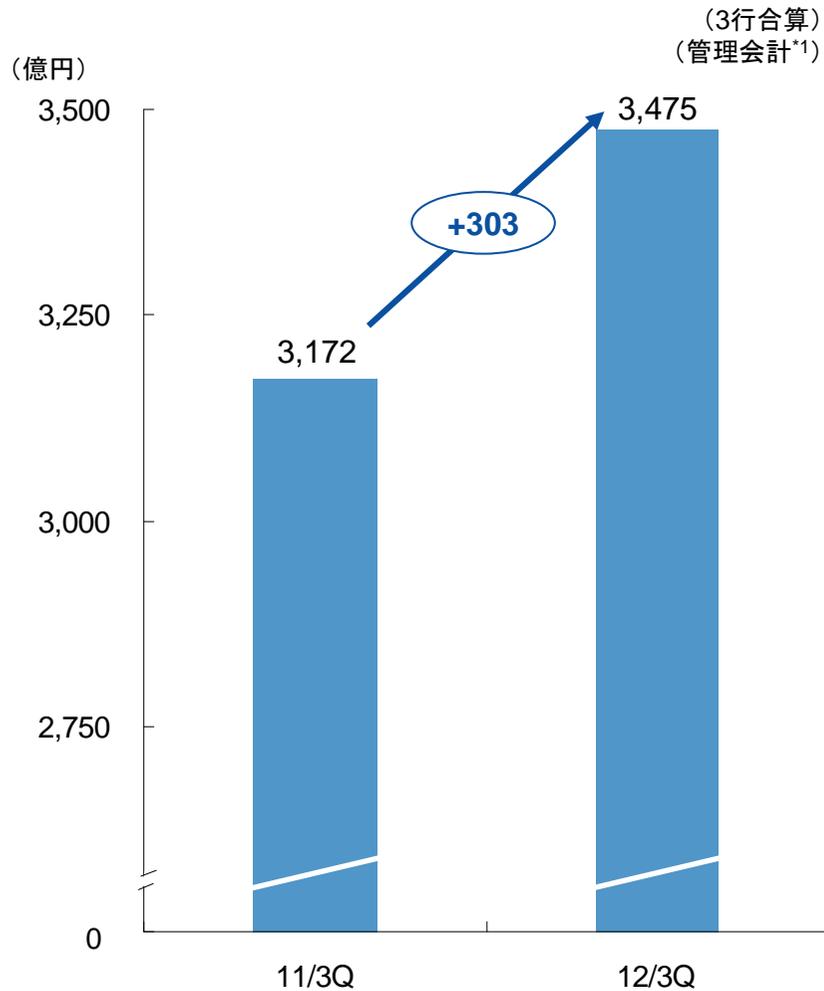
- 国内預貸金利回差(2行合算)は、貸出金利回りの低下により第2四半期比縮小



\*5: 2行(みずほ銀行、みずほコーポレート銀行)の国内業務部門合算  
(株)みずほフィナンシャルグループ向け、預金保険機構及び政府等向け貸出金を除く

# 非金利収支

## 非金利収支(顧客部門)



■ 顧客部門の非金利収支は前年同期比303億円増加

### 〈前年同期比増減内訳(概数)〉

ソリューション関連:	+100億円
投信・保険関連:	+40億円
決済・外為関連:	+0億円
海外非金利:	+150億円
財管業務 <sup>*2</sup> :	△30億円
その他:	+50億円

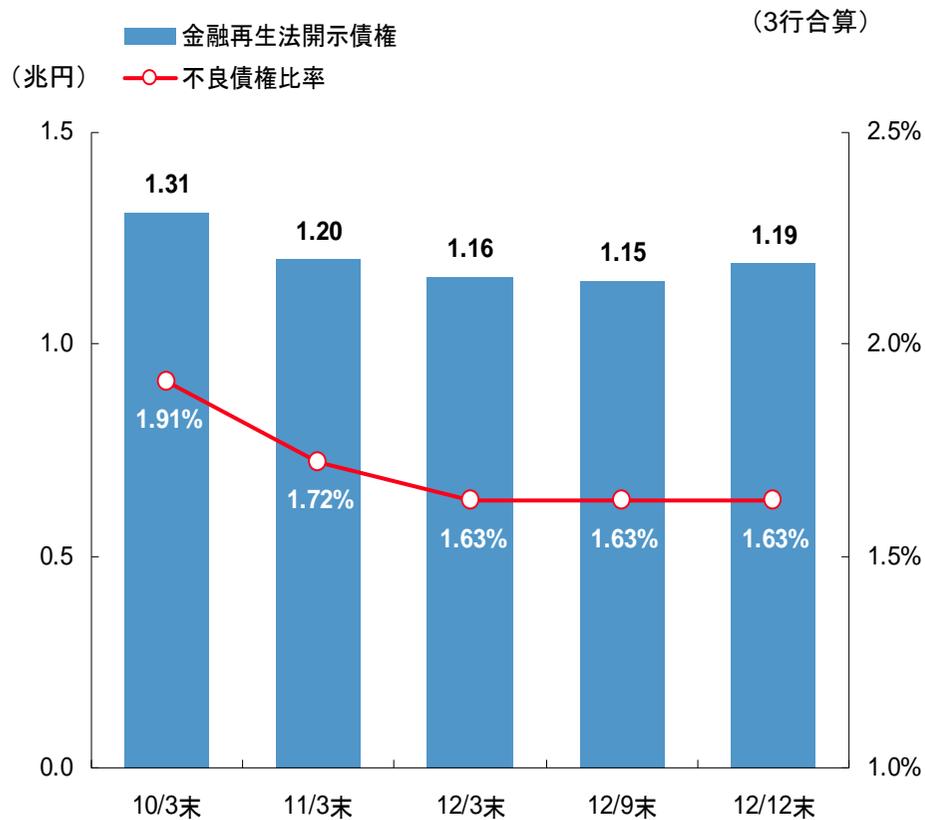
<sup>\*1</sup>: 実質ワンバンク化を踏まえ、2012年度より管理会計ルールを変更  
11/3Q実績は変更後の管理会計ルールに基づき算出  
(11/3Qにおける影響額は約+320億円)

<sup>\*2</sup>: みずほ信託銀行財管部門

# 財務の健全性

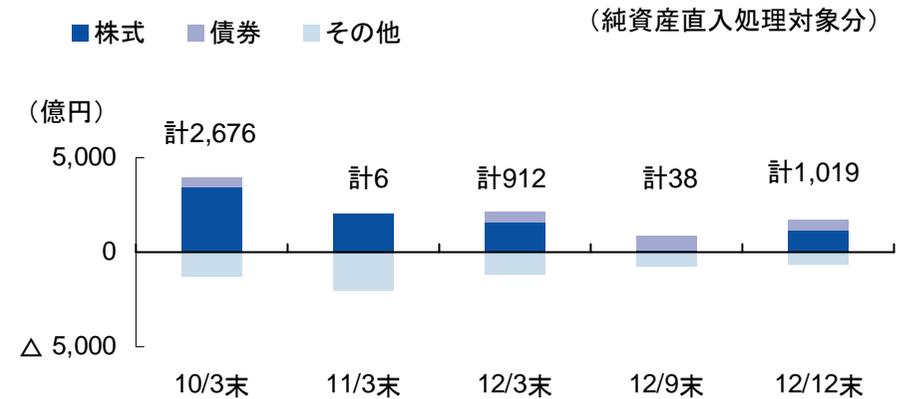
## 金融再生法開示債権および不良債権比率

- 開示債権残高は12/9末比微増
- 不良債権比率は1.63%と引続き低水準



## その他有価証券評価差額(連結)

- その他有価証券評価差額は、株価上昇の影響を主因に12/9末比増加



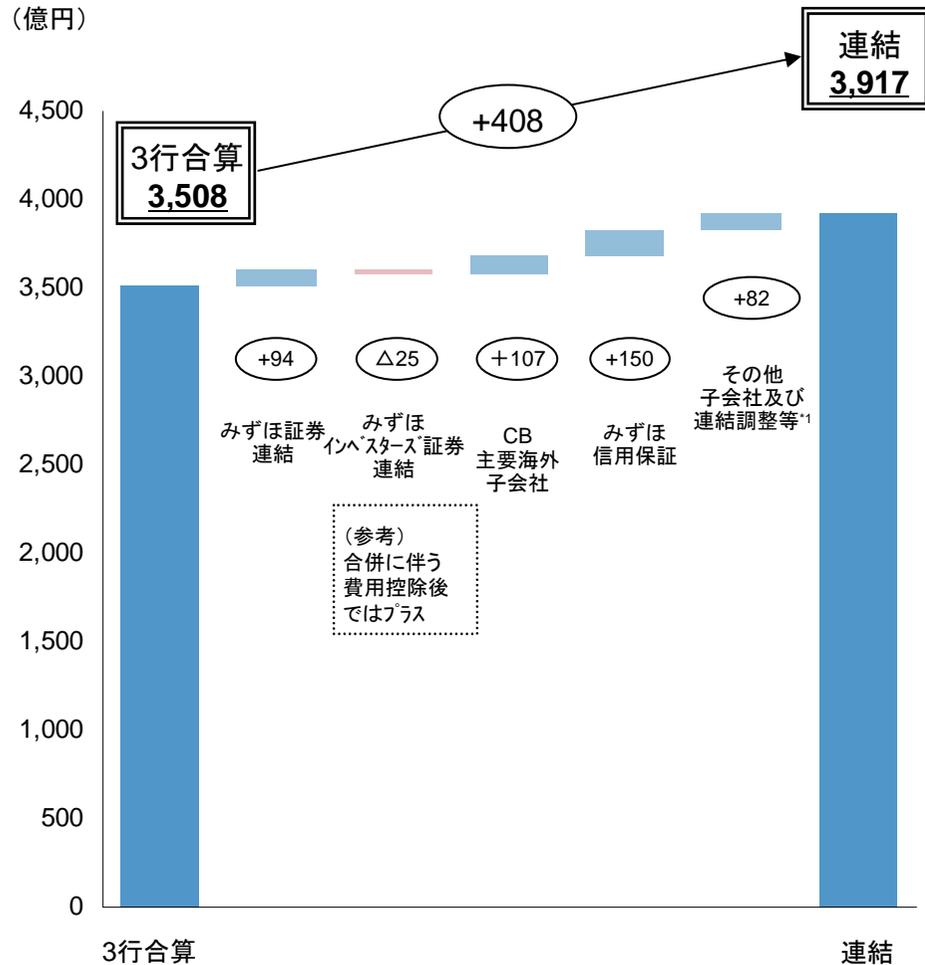
## 繰延税金資産純額(連結)

(億円)

	2012年		2012年	2012年
	12月末	12/9末比	9月末	3月末
繰延税金資産純額	3,994	△ 209	4,204	3,407

# (参考)連単差

## 四半期純利益の連単差



\*1: 株式減損の調整を含む

- 連単差(連結-3行合算)は408億円
- 特殊要因\*2 控除後では、前年同期比621億円の増加
- みずほ証券の業績改善も連単差拡大の主要因

\*2: 前年度:グループ会社の完全子会社化による連単差影響+1,050億円程度  
 今年度:株式減損の調整による連単差影響+29億円程度

## みずほ証券(連結)の収益状況

(億円)

	2012年度		2011年度
	第3四半期	前年同期比	第3四半期
純営業収益	1,623	+373	1,249
販管費	Δ 1,527	+106	Δ 1,633
経常利益	107	+474	Δ 366
四半期純利益	94	+728	Δ 633

- 上期に続いて3Qも黒字計上
- 純営業収益は、受入手数料の増加や好調なトレーディング等を背景に増加
- 販管費は、「業務基盤強化プログラム」実施等による削減効果により減少

本資料には、事業戦略及び数値目標等の将来の見通しに関する記述が含まれております。こうした記述は、本資料の作成時点において入手可能な情報並びに事業戦略及び数値目標等の将来の見通しに影響を与える不確実な要因に係る本資料の作成時点における仮定(本資料記載の前提条件を含む。)を前提としており、かかる記述及び仮定は将来実現する保証はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。

また、事業戦略及び数値目標等の将来の見通しに関する事項はその時点での当社の認識を反映しており、一定のリスクや不確実性等が含まれております。これらのリスクや不確実性の原因としては、与信関係費用の増加、株価下落、金利の変動、外国為替相場の変動、保有資産の市場流動性低下、退職給付債務等の変動、繰延税金資産の減少、ヘッジ目的等の金融取引に係る財務上の影響、自己資本比率の低下、格付の引き下げ、風説・風評の発生、法令違反、事務・システムリスク、日本及び海外における経済状況の悪化、規制環境の変化その他様々な要因が挙げられます。これらの要因により、将来の見通しと実際の結果は必ずしも一致するものではありません。

当社の財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌等の本邦開示書類や当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F年次報告書等の米国開示書類等、当社が公表いたしました各種資料のうち最新のものを参照ください。

当社は、東京証券取引所の定める有価証券上場規程等により義務付けられている場合を除き、新たな情報や事象の発生その他理由の如何を問わず、事業戦略及び数値目標等の将来の見通しを常に更新又は改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

本資料は、米国又は日本国内外を問わず、いかなる証券についての取得申込みの勧誘又は販売の申込みではありません。